

保存修復学 I

責任者名：宮崎 真至

学期：前期

対象学年：3年

授業形式等：講義

◆担当教員

宮崎 真至(歯科保存学 I 教授)

陸田 明智(歯科保存学 I 准教授)

高見澤 俊樹(歯科保存学 I 准教授)

辻本 暁正(歯科保存学 I 助教)

石井 亮(歯科保存学 I 助教)

◆一般目標 (GIO)

歯に生じる硬組織疾患の概要を理解するために、疾患の治療の進め方の基本を修得する。

◆到達目標 (SBO s)

- ① 歯の硬組織疾患 (tooth wear (酸蝕症, 咬耗, 摩耗等), 歯の変色, 象牙質知覚過敏症を含む) の病因と病態を説明できる。
- ② 齲蝕およびその他の歯の硬組織疾患 (tooth wear (酸蝕症, 咬耗, 摩耗等), 生活歯の変色, 象牙質知覚過敏症) の症状, 検査法, 診断および処置法 (再石灰化療法を含む) を説明できる。
- ③ Minimal Intervention <MI>に基づいて歯科治療の意義, 臨床的対応を説明できる。
- ④ 修復材料とその取扱い, 修復法の適応を説明できる。
- ⑤ 修復に必要な前処置の目的と意義を説明できる。
- ⑥ 歯髄保護の意義, 種類と方法を説明できる。
- ⑦ 窩洞形成の意義と方法を説明できる。
- ⑧ 仮封の意義, 種類及び特徴を説明できる。
- ⑨ 修復後の管理の目的と方法を説明できる。

◆評価方法

平常試験 (40%), 提出物 (60%) から総合的に評価する。

平常試験については試験終了後解説を行うので、講義内容に対する理解度を確認し、知識の習熟を図ること。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
宮崎 真至	月曜日 17:00~18:00 本館 6 F 教授室		
陸田 明智	月曜日 17:00~18:00 本館 6 F 修復研究室		

高見澤 俊樹	月曜日 17:00~18:00 本館6F 修復研究室		
辻本 暁正	月曜日 17:00~18:00 本館6F 修復研究室		
石井 亮	月曜日 17:00~18:00 本館6F 修復研究室		

◆授業の方法

シラバスに記載している内容についてオンラインでの授業を行う。PDFトを使用した授業では、プリントに記載していない内容については、各自書き足すようにすること。平常試験については、現時点（4月22日）ではその方法については未定であるが追って連絡する。

【実務経験】宮崎真至：在職している日本大学歯学部付属歯科病院保存修復科での経験および歯科保存学第I講座の教授として、研究等で得られたこれまでの知見および最新の情報から、歯科臨床現場における手技および理論背景を学ぶ場を提供したいと考えている。（保存修復学I）

【実務経験】高見沢俊樹，陸田明智，辻本暁正，石井 亮：現在，在職している日本大学歯学部付属歯科病院保存修復科での経験を踏まえながら，CBT や歯科医師国家試験への対応も含めて，歯科医療に必要な保存修復領域の基本的知識を修得する場を提供したいと考えている

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書	保存修復学（第7版）	千田 彰，寺中敏夫，寺下正道，宮崎真至 他	医歯薬出版	2015年
参考書	保存クリニカルガイド（第2版）	千田 彰，寺下正道，田上順次，奈良陽一郎，宮崎真至 他	医歯薬出版	2012年
参考書	保存修復学21	田上順次，奈良陽一郎，山本一世，斉藤隆史	永末書店	2017

◆DP・CP

[DP-3]

コンピ° テンス：論理的・批判的思考力

コンピ° テンシー：多岐にわたる知識や情報を基に，論理的な思考や批判的な思考が`できる。

[CP5-1]医療推論に必要な医学知識を基に適切に診断し、治療計画を立案できる。

[CP5-4]臨床の体系的な知識および診査・診断と治療技能に関する基本的事項が修得できる。

[DP-4]

コンピテンシ：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

[CP4-2]歯科医学に関する体系的知識を習得し、臨床的な視点から問題を解決することができる。

[CP4-4]最先端の歯科医学に関する知識を修得し、自らが取り組むべき課題を探究することができる。

◆準備学習(予習・復習)

事前に必ず教科書を読み、授業内容を理解しておくこと。

各授業の内容について、PDFを用いて復習するとともに、必要に応じて教科書等で補足することで知識の習熟を図ること。

予習・復習に充てる時間は、それぞれ授業時間と同等の時間を割くこと。

◆準備学習時間

各々授業時間相当を充てて予習と復習を行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

保存修復学実習Ⅰ（3年前期）

保存修復学実習Ⅱ（3年後期）

歯科理工学Ⅱ（3年前期）

歯科理工学実習Ⅱ（3年前期）

ベーシックカリオロジー（3年前期）

クリニカルカリオロジー（3年後期）

臨床推論の構築（5年後期）

臨床実習（5年通年）

臨床実習アドバンスト（6年前期）

◆予定表

回	クラス	月日	時限	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		5.11	3	1. 保存修復学 (1) 1)概念と目的 2)歴史 3)硬組織疾患の種類 (教1)pp.1-3 pp.13-20	・保存修復の基礎概念および修復処置の対象となる疾患について説明できる。	宮崎 真至	E-3-1) 歯と歯周組織の発生及び構造と機能 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因
2		5.18	3	1. 保存修復学 (2) 4)齲蝕の病因と病	・齲蝕の病態、分類などについて説明できる。 ・診査、診断の方法について説明で	宮崎 真至	E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因

				<p>態</p> <p>5)齶蝕の分類と表記</p> <p>6)修復材料の種類</p> <p>7)診査, 診断 (教1)pp.21-31 pp.52-58</p>	きる。		E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療
3		5.25	3	<p>2. 硬組織疾患の処置 (1)</p> <p>1)治療計画</p> <p>2)硬組織疾患の処置 (教1)pp.58-82</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・硬組織疾患の特徴をふまえた治療計画の立案について説明できる。 ・歯質の処置方針について説明できる。 	宮崎 真至	E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療 D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法
4		6.1	3	<p>2. 硬組織疾患の処置 (2)</p> <p>3)窩洞</p> <p>(1)窩洞外形</p> <p>(2)保持形態</p> <p>(3)抵抗形態</p> <p>(4)便宜形態</p> <p>(5)窩縁形態</p> <p>(6)窩洞の清掃 (教1)pp.109-120</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・修復物が填塞される窩洞の分類, 窩洞の具備すべき条件の窩洞外形, 保持形態, 抵抗形態, 便宜形態, 窩縁形態などを説明できる。 	陸田 明智	E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療
5		6.8	3	<p>2. 硬組織疾患の処置 (3)</p> <p>4)修復治療の留意点</p> <p>(1)歯髄障害の原因</p> <p>(2)裏層 (歯髄保護)</p> <p>(3)仮封 (教1)pp.120-125</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歯髄の存在理由および修復操作にともなう生じる歯髄刺激の内容と障害を防止する裏層, 仮封などの歯髄保護処置の重要性を説明できる。 	辻本 暁正	E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療
6		6.15	3	<p>3. 診療設備, 診療姿勢</p> <p>4. 硬組織の切削 (教1)pp.35-40</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水平位診療を説明できる。 ・窩洞形成とそれに使用する手用および回転式切削器具の種類と方法を説明できる。 	高見澤 俊樹	D-1 歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具) の特性と

				pp.97-108	・硬組織の切削方法について説明できる。		用途 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療
7		6.22	3	5. 修復時の留意点 1)修復治療の前準備 (1)隔壁と防湿法 (2)歯間分離法 (3)歯肉排除法 (教1)pp.126-134	・修復操作を容易に確実に実施するための修復前準備処置を説明できる。	高見澤 俊樹	E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療
8		6.29	3	「平常試験」および解説（フィードバック）形式は未定	・第1回から第7回までの講義項目の範囲を記述およびマークシート式によって試験を行う。 ・平常試験の解説 解説により授業内容の理解度の確認及び習熟を図る。	宮崎 真至 高見澤 俊樹	E-3-1) 歯と歯周組織の発生及び構造と機能 D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療
9		7.6	3	6. 鑄造修復 (1) 1)鑄造修復とは 2)インレーの特徴 3)窩洞の特徴 (教1)pp.192-195	・鑄造修復法の歴史、種類および特徴を説明できる。 ・Blackの窩洞形態の原則を説明できる。	石井 亮	D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療

10	7.13	3	6. 鑄造修復 (2) 4)メタルインレー 製作法 5)印象材と印象法 (教1)pp.196-198	<ul style="list-style-type: none"> ・間接法メタルインレーの製作法について、臨床ステップに沿って使用される材料の特性、使用方法を説明できる。 ・メタルインレーの製作法について、印象材と印象法について説明できる。 	石井 亮	D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療
11	7.20	3	6. 鑄造修復 (3) 6)咬合採得 7)模型調整法 8)インレーワックス (教1)pp.198-201	<ul style="list-style-type: none"> ・メタルインレーの製作法について、咬合採得、模型調整法、インレーワックスの特性、使用方法を説明できる。 	陸田 明智	D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療
12	7.27	3	6. 鑄造修復 (4) 9)埋没前準備 10)埋没法 11)金属の種類と組成 12)鑄造法 (教1)pp.192-194 pp.201-205	<ul style="list-style-type: none"> ・メタルインレーの製作法について、埋没材、埋没前準備および埋没法について説明できる。 ・メタルインレーの鑄造用金属および鑄造法について説明できる。 	陸田 明智	D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療
13	8.3	3	6. 鑄造修復 (5) 13)鑄造欠陥 14)鑄造体の仕上げ 研磨法 15)鑄造体の合着法 16)インレー体装着 後の予後 17)平常試験および 解説 (フィードバック) (教1)pp.206-209	<ul style="list-style-type: none"> ・メタルインレーの鑄造欠陥について説明できる。 ・鑄造されたインレー体が口腔内で機能するための仕上げ研磨法および正しい合着法を説明できる。 ・インレー体合着後の予後について説明できる。 ・鑄造修復に関して試験を行う。また、解説により授業内容の理解度の確認及び習熟を図る。 	陸田 明智	D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療

14		8.17	3	<p>7. メタルフリー修復</p> <p>1)コンポジットレジニンレー</p> <p>2)セラミックインレー</p> <p>(教1)pp.210-221</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メタルを用いない間接修復法を説明できる。 ・メタルインレーとコンポジットレジニンインレーおよびセラミックインレーの違いを説明できる。 	辻本 暁正	<p>D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法</p> <p>E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療</p>
15		8.24	3	<p>7. メタルフリー修復</p> <p>3)CAD-CAM インレー</p> <p>4)合着と接着</p> <p>(教1)pp.181-191</p> <p>pp.222-228</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メタルを用いない間接修復法を説明できる。 ・CAD-CAM を用いたインレー製法を説明できる。 ・素材の違いによって合着材料が異なることを説明できる。 	辻本 暁正	<p>D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法</p> <p>E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療</p>

